

登場人物

- ・主人公
- ・人形
- ・母親

主人公 なんですか。

母 だから、全部自分でしなさいったら。

主人公 え？

母 ご飯食べたあとの食器は自分で洗うこと。

主人公 え？ 僕の方だけ洗ってくれないの。みんなで一緒に食べるのに。

母 一人分多く洗うだけでも時間がかかるの。次、自分の服は自分で洗うこと。

主人公 一緒に洗ったら、洗濯機回数も洗剤使う量も少なくてすむのに。

母 あんたの分まで干さなきゃいけないじゃない。

主人公 僕が全部干すよ。

母 いい、いい、余計なことしないでね。

主人公 なんなの。

母 最後に、どこかに連れてってもらおうなんて考えないこと。

主人公 えっ……。

母 必要な買い物は自分で買いに行きなさい。電車くらい乗れるでしょ。

主人公 そりゃ乗れるよ！ ……あの、前言ってた、家族みんなで半島ぐるっと車で回るの

は……。

母 ここからどのくらいかかると思ってるのよ。

主人公 半島までは車で片道二時間でしょ。

母 そう。この忙しいときに、行けるわけないでしょう。

主人公 忙しさをむやみやたらと言いつてするのはよくないんだぞ！

母 ほんとに忙しいから言ってるんでしょう！

主人公 ゴールデンウィーク（春休み）くらいさあー、みんなで出かけようよおー。今年こ

そは行きたいねって言ってたじゃん！

母 行けたらいいねって話でしょう。

主人公 実現しない話であんなに具体的な計画立てたの？

母 話だけでも楽しいじゃない。

主人公 酷いぜ。

母 行きたいなら自分で行きなよ……。ほら、もうあっち行きなさい。仕事ははかどらない。

主人公 あーあ、ドーナツ食べたかったなあー。

人形 あ！ あのトマトとにんにくのドーナツ？

主人公 そうそう。

人形 道の駅の新商品だよ。コマーシャル見たよ。

主人公 あれのコマーシャルなんかあったのかあ。お前、やっと喋ったねえ。

人形 きみの声に聞き惚れてたよ。

主人公 嬉しいことを……。

人形 んふふ。本当さ。久しぶりに会ったからねえ。

主人公 しばらく会わないうちに、喋らなくなっちゃったのかと思ったよ。

人形 僕の寿命はそんなに短くないやい。まだまだ、ピンピン、ピチピチの若者さ。

主人公 僕よりは年上だろ？

人形 そうさ、まあ君よりはいくらかね。

主人公 おい、威張るなよ。

母 あっち行きなさいったら。うるさいなあ……。

主人公 はいはい。

主人公、母から離れる。

人形 お母さん、今が追い込みどきだからねえ。

主人公 ふん。追い込みどきのお母さんは子どもなんかいらんんだ。

人形 何言ってるんだよ。

母 お母さん、そりゃあなたがいてくれたら嬉しいよ。そばにいてくれるだけで嬉しいよ。

人形 うんうん。

主人公 ふん……。

母 でもお仕事の邪魔になるような子はいらんやいよ。

主人公 邪魔だって……。

主人公、さらに母から離れる。

主人公 おかしいでしょー、なんで僕の食器だけ洗ってくれないの。

人形 まあまあ。

主人公 僕がこっちにいるときはテーブル片付ける手間が減るはずでしょ？ その余裕で

僕一人の分洗うくらいできるでしょー。

人形 お母さん、五人分洗うのに慣れちゃったんだねえ。

主人公 三人の子どもがいなくなった、大人だけの家庭かあ……。

人形 まさか三人とも県外に進学するとは、僕思ってたよ。  
主人公 あっ、ひいおばあちゃんにカメラ貸してってまだお願いしてないや。  
人形 カメラ？ あの二眼の？  
主人公 うん、今度、サークルで使いたいんだ。  
人形 へええ。  
主人公 でね、そのカメラで撮った作品を、今年の大学祭で展示するんだ。  
人形 わあ、素敵だね。  
主人公 でしょでしょ。  
人形 いいなあ、見に行きたいなあ。  
主人公 もちろん、家族みんなに見に来てもらいたいさ。  
人形 楽しみー。  
主人公 だから、今日こそはみんなにこのお知らせをしたいんだけどなあ……。  
人形 みんな出かけちゃって、お母さんしかいないからねえ。  
主人公 うーん。なんで、僕が帰省するときに限って家族そろわないのさ……。  
人形 ええっと、ひいおばあちゃんは同窓会で……。  
主人公 六次会が終わるまで帰ってこないんだっけ。  
人形 うん。  
主人公 もう二日経ったぞ……。  
人形 そういえば今朝早くに、三次会やと終わったって電話来てたよ。  
主人公 そうなんだ。楽しそう。  
人形 で、おじいちゃんとおばあちゃんは組合の会議に行つて、そのまま二泊の研修旅行だよ。  
主人公 お父さんは？  
人形 会社の研修旅行だよ。  
主人公 ふうん。  
人形 そういうわけで、お母さんは一人でうちの仕事を全部こなしてるわけさ。  
主人公 僕もいるけど。  
人形 ああ、そうだね。  
主人公 うーん、お母さんしかいないわけだね、僕の大事な大事なお知らせを聞いてくれるのは。  
人形 うん。  
主人公 よーし、じゃあなにがなんでも、聞いてもらわなくっちゃ。  
主人公 母に近づく。  
主人公 ねえ。  
母 ……………。  
主人公 ねえってば。

母 ……………。  
主人公 お母さん。  
母 ……………。  
主人公 おーい。  
母 ……………。  
主人公 ヨイヨイ。  
母 ……………。  
主人公 やっほーう。  
母 ……………。  
主人公 ねえ、ねえ、ねえってばあ。  
母 ……………。  
主人公 大事な話があるんだよう。  
母 ……………。  
主人公 あのさ、今年の大学祭では、サークルのみんなで撮った写真をね。  
母 ……………。  
主人公 壁一面に、展示するんだよ。  
母 ……………。  
主人公 でね。  
母 ……………。  
主人公 今年使う教室はね。  
母 ……………。  
主人公 なんとなんと！  
母 ……………。  
主人公 二階の、あの一番大きな部屋を使うんだよお。  
母 ……………。  
主人公 お母さんも、わかるよね。  
母 ……………。  
主人公 入学式の日、あの部屋に行ったもんね。  
母 ……………。  
主人公 保護者へのお話、あの部屋でしてたんでしょ。  
母 ……………。  
主人公 おーい、聞いてるかーい。  
母 ……………。  
主人公 大事な話、聞いてるかーい。  
母 ……………。  
主人公 展示場所がどこかってのは、とてもとても大事なことからね。

母 ……………。  
主人公 場所がわからなかったら、僕たちの作品が見られないんだから。  
母 ……………。  
主人公 いい？ もう言わないからね。  
母 ……………。  
主人公 ほら、これ僕たちのチラシね。  
母 ……………。  
主人公 はい。  
母 ……………。  
主人公 ほら、自分で持つて！  
人形 ちよ、ちよつと！  
母 ……………。

無言でチラシを払いのける。

主人公 わっ……………！  
人形 さすがにこれはちよつとしつこいよ。

チラシを拾い、主人公に渡す。

主人公 うーん。……………テイク2。  
再び母に近づく。

主人公 お母さん。  
母 ……………。

人形 ほら、やっぱり返事がないぞ。

主人公 そうだね。

人形 ほんとにもう、どうしたんだろう。

主人公 いつもこうだよ。もう、僕のことなんかあんまり構いたくないのさ。

人形 ふうん。

主人公 もうずいぶん、こうさ……………。

人形 きみも大変ですなあ。

主人公 ふん。

人形 おや、すねないですよ。

主人公 別にすねてないさ、別に。もっと親身になってもらいたいもんだね。

人形 いったって親身さ。

主人公 そうかい？

人形 そうともさ。やだよお、疑ってるのお。  
主人公 そんなことないけど。  
人形 いつだってきみの味方じゃないかあ。  
主人公 うん、そうだよね。  
人形 今だってそうだよ。  
主人公 うん。ちよつと、近い近い。  
人形 心の距離ってやつさ。  
主人公 めり込んじゃうよ。ちよつと、痛いよ。痛いって。  
人形 お母さんはこれでも反応がないよ。  
主人公 うん。  
人形ほんとに、声、聞こえてるかしら。  
主人公 聞こえてるはずだけどなあ。  
人形 パソコンの力はすごいんだなあ。  
主人公 心配なのは、さつきから一度もエンターキーを押してないってことだ。  
人形 ああ、言われてみれば。  
主人公 大丈夫なのかなあ。  
人形 お母さん。  
主人公 お母さん。  
人形 あらあ、やっぱり聞こえてないみたい……。  
主人公 お母さん、データ消えちやっても知らないよ。  
人形 あらあ。  
主人公 ふん、知るもんかい。  
人形 まあまあ、気を取り直して。  
主人公 取り直せるかいっ。  
人形 うーん、そうねえ、  
主人公 あ。  
人形 ん？  
主人公 パソコンを閉じてみたらどうだろう。  
人形 え？  
主人公 お母さんの全ては、パソコンで成り立ってるようなものだから。  
人形 また大胆な。

主人公、パソコンを閉じる。母、パソコンの画面とともに倒れ込む。